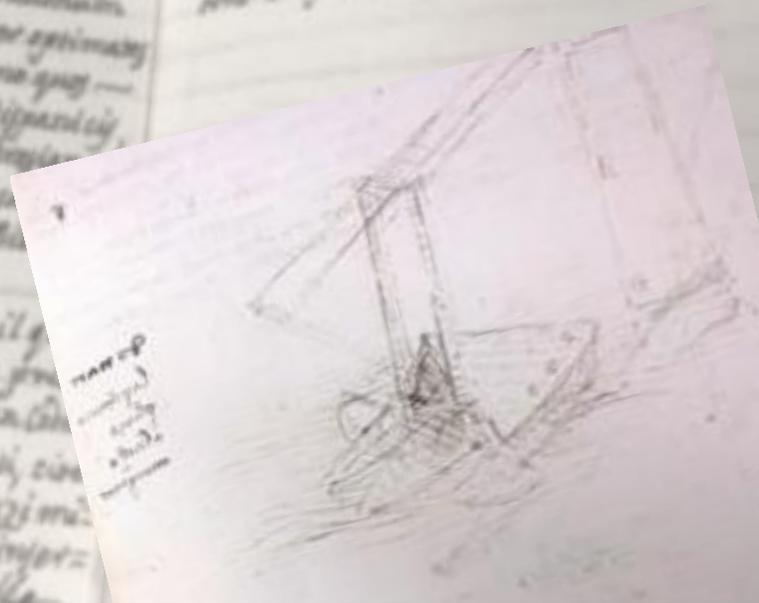
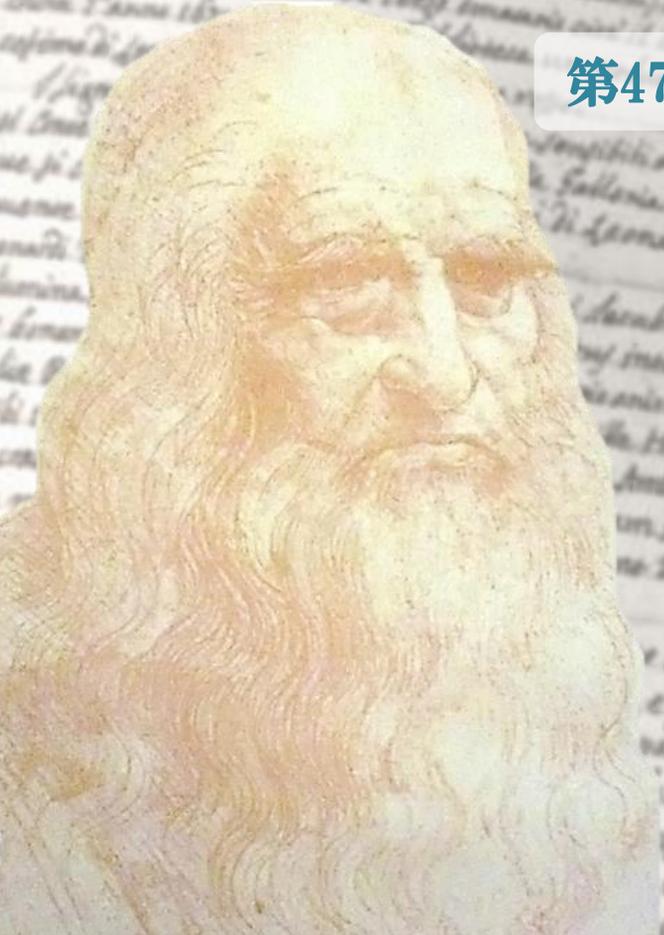


Meridian

展示会通信第49号

神戸学院大学有瀬図書館
2019年4月30日発行

第47回有瀬図書館ギャラリー展



没後500年

*Leonardo
da Vinci*

レオナルド・ダ・ヴィンチ

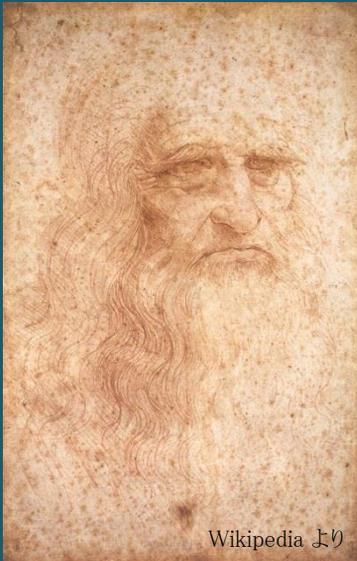
2019年4月5日(金)～2019年6月28日(金)

開催場所: 神戸学院大学有瀬図書館

本館2階 エントランス展示コーナー

* 開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP・掲示にて、ご確認のうえご来館ください。

第47回 ギャラリー展では「没後500年 レオナルド・ダ・ヴィンチ」と題して、ダ・ヴィンチを知るうえで欠かせない資料であり、貴重な財産である手稿を展示しています。



Wikipedia より

レオナルド・ダ・ヴィンチ Leonardo Da Vinci

(1452-1519)

フィレンツェ郊外のヴィンチ村で生まれたダ・ヴィンチは、フィレンツェの工房で修業を積んだ後、30歳のころミラノ公の宮廷に仕え、画家、彫刻家、建築家、軍事技術者として活躍しました。絵画の代表作には「モナ・リザ」「最後の晚餐」「受胎告知」などがあります。特に「モナ・リザ」は、未完成の作品と言われ多くの謎に包まれており、時代を超えた名作として多くの人を魅了しています。

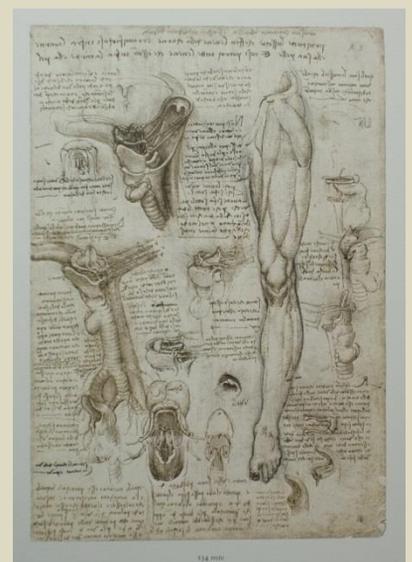
ダ・ヴィンチの関心は絵画だけにとどまらず、解剖学、水力学、土木工学、機械学など多彩な分野にまで及んでいます。その研究については、デッサンとともに膨大な数の手稿に記されています。

広範囲に及んだダ・ヴィンチの研究は高い評価を得ており、ルネサンス期を代表とする「万能の天才」と称されています。

展示の紹介



解剖手稿 第3巻 137recto
岩波書店,1982年



解剖手稿 第3巻 134recto
岩波書店,1982年

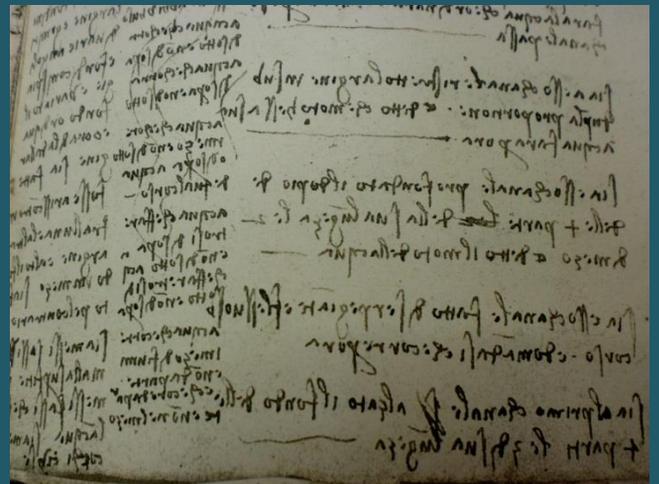
手稿について



I manoscritti dell'Institut de France[manoscritto A]
Iwanami Shoten,1988年

ダ・ヴィンチの手稿は、鏡文字になっています。
理由は諸説ありますが、左利きであったためという説が濃厚です。
契約書のサインなどは通常通りの文字で書いており、普通の文字もかけるということは証明されています。
鏡文字なので、鏡に映すと読みやすくなりますが愛弟子であるメルツィはそのままで読んで、清書まで行っていました。

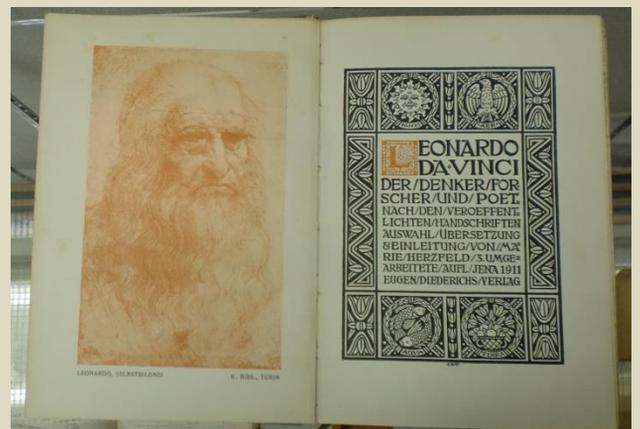
ダ・ヴィンチの死後、遺言により手稿は愛弟子の手に渡りますが、愛弟子の死後、手稿はヨーロッパ中に散逸します。
その散逸していった手稿の中に、ナポレオンがイタリアに遠征した時に接收してパリに持ち帰った物あります。その手稿は、ナポレオンの失脚後も、一部がパリにとどまり、『パリ手稿』と呼ばれフランス学士院図書館に所蔵されています。



I manoscritti dell'Institut de France[manoscritto C]
Iwanami Shoten,1988年



I manoscritti dell'Institut de France[manoscritto B]
Iwanami Shoten,1988年



Leonardo da Vinci:der Denker,Forscher und Poet
E.Diederichs,1911年

展示の様子



編集後記

今回のギャラリー展では、誰もが知っている絵画「モナ・リザ」を描いたレオナルド・ダ・ヴィンチの没後500年を記念して展示を行いました。

ダ・ヴィンチが67歳で亡くなるまで描き続けていた手稿の細かいデッサンや字をみて、天才の片鱗を感じながらお楽しみください。

参考文献

- 美術出版社編集部、藤原えりみ編集『西洋美術史：カラー版』美術出版社、2002
前橋重二著『レオナルド・ダ・ヴィンチ：人体解剖図を読み解く』新潮社、2013
H・アンナ・スー編『レオナルド・ダ・ヴィンチ：天才の素描と手稿』西村書店、2012
裾分一弘監修『もっと知りたいレオナルド・ダ・ヴィンチ：生涯と作品』東京美術、2006
日本大百科全書、集英社世界文学大事典